

公益社団法人やどかりの里

2017年 寄付趣意書
グループホーム建設に向けて

1970（昭和45）年、やどかりの里は、病気が回復しているのにも関わらず長期入院を余儀なくされている人たちの「地域であたりまえに暮らしたい」という願いから、活動を開始しました。以来さいたま市内に地域生活を支援する場、グループホーム、憩う場、働く場などを点在させ、障害のある人が地域の人々と共に安心して暮らせる街づくりをめざして活動に組んでいます。

昨年末やどかりの里は大きな決断をしました。グループホームを建設するために、見沼区中川にあるサポートステーションやどかりの道路を隔てて東側の土地を購入（474.95㎡、143.92坪）しました。これまでの賃貸物件では難しかった、入居者の高齢化などに対応したバリアフリーで手厚い支援態勢を整えた平屋の建物を計画中です。住み慣れた地域で暮らしていきたいというメンバーのニーズに応えていきたいと思います。

土地代は20年の長期借入金等で支払いましたが、建築代は約5,500万円を予定しており、国庫補助金事業となっても自己資金として3,500万円以上が必要になります。

そこで、グループホーム建設準備委員会を組織しました。これからさいたま市との協議、国庫補助協議、建築費の自己資金集めを当面の目標としております。

本件以外にもやどかりの里の活動は多岐にわたります、現在やどかりの里の事業所は障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス報酬費や補助金・委託金により運営されています。

また障害のある人の働く場として就労支援事業所を運営し、9,318万円の売上がありました。この売上から障害のある人へ工賃を支払い家賃や材料代などの経費に充てています。

2016年度の寄付金額は123万円でしたが、グループホーム建設にはさらに皆さまからの寄付がなくてはならない財源になります。寄付につきましては用途を定めることも、やどかりの里の公益事業への寄付とすることも可能です。誰もが安心して暮らせる街づくりに向けて活動を進めてまいりたいと存じます。どうぞ趣旨を鑑み、寄付へのご協力のほどお願い申し上げます。

2017年5月1日

公益社団法人やどかりの里

代表理事 土橋敏孝